

### ◇「完全復元伊能図全国巡回フロア展in金沢工業大学」に国土地理院コーナーを出展

平成22年10月23日・24日、金沢工業大学において「完全復元伊能図全国巡回フロア展in金沢工業大学」(主催:金沢工業大学、北國新聞社/後援:国土地理院北陸地方測量部)が開催されました。

開場式では小牧国土地理院長が祝辞を述べ、関係者と共にテープカットを行いました。開催期間中、国土地理院の展示コーナーを設け、明治時代に参謀本部陸地測量部によって作成された地図や現代の地形図作成のパネル、金沢中心部・金沢工業大学周辺の空中写真による変遷を展示しました。

2日間で約3,200人の来場者があり、国土地理院コーナーにも多くの方々に見学いただきました。また、フロア展の特別講演では、前国土地理院長の藤本貴也氏による「地図は国家なり～日本の歴史に登場する地図の話し」と題し、国土地理院の国としての役割、地図の重要性についてのお話がありました。



祝辞を述べる小牧国土地理院長



テープカット



国土地理院コーナー



伊能図フロア展示風景

### ◇「第31回石川県高等学校測量技術コンテスト」が開催されました

平成22年10月27日(水)、第31回石川県高等学校測量技術コンテストが開催されました。

この大会は、学校での実習、部活動等で習得した測量技術を、チームの協力、連携による共同作業によってその成果を競い、測量技術の向上と学校の交流・親睦をはかることを目的としており、石川県高等学校技術教育研究会が主催し、(社)石川県測量設計業協会の共催で北陸地方測量部が後援して開催しております。

コンテストでは、石川県内で測量を学ぶ5校の生徒が「水準測量」「平板測量」「角測量」の3部門で日頃の学習成果を競い合いました。各部門の最優秀賞は「水準測量」の部門を翠星高校、「平板測量」の部門を七尾東雲高校、「角測量」の部門を金沢市立工業高校がそれぞれ受賞しました。総合優勝した翠星高等学校には、北陸地方測量部の松崎次長より、北陸地方測量部長賞が授与されました。

今大会は、開会式・内業作業等を羽咋工業高等学校で、外業作業を羽咋市眉丈台スポーツ広場で行われ、秋空の中、各チームとも観測値の復唱の音が響く一日でした。



コンテスト風景

## ◆福井県の2つの小学校で「地図教室と測量体験」が開催されました

(社)福井県測量設計業協会は「測量の日」関連行事として、10月27日に勝山市立成器南小学校、11月5日に大野市立有終東小学校で「地図教室と測量体験」をそれぞれ開催しました。北陸地方測量部からは地図教室の講師として職員を派遣しました。

勝山市立成器南小学校では、6年生26名が参加。北陸地方測量部の船津専門職による地図教室では、「地図ができるまで」と「いろいろな地図記号」というテーマで、身の回りにある身近な地図や珍しい地図、代表的な地図記号をクイズ形式で紹介したほか、成器南小学校周辺の変化について地図や空中写真を使って説明しました。

後半の測量体験として行った測量実習では、校庭において、三角定規を使って校舎の高さを測定したり、歩測による距離測定、トランシット・レベル等の測量機器で計測するなどの測量作業を体験しました。当日は、前日の冷たい雨が嘘のように晴れ、児童のみなさんも普段体験できない測量機器に触れ、実際の測量した結果を友達と比べたりして、元気に測量体験を楽しんでいました。

大野市立有終東小学校では、5年生66名が参加。北陸地方測量部の田中専門職による地図教室では、地図がどのようにして作られるのか、また、さまざまな地図の中には「くまマップ」なども作成されていること、そして、地図記号では図書館や博物館など、写真と地図から答えてもらいながら紹介しました。児童たちは市内の身近な施設とあって、みんな元気よくクイズに回答していました。

後半の測量体験は、当日あいにくの雨模様となったため、体育館において歩測による距離測定やトータルステーションなどの測量機器を操作し測定する実習を行いました。特に人気が高かったのは「歩測」で、自分の歩幅と歩数から距離が計算できることに興味津々といった様子でした。

○勝山市立成器南小学校



地図教室風景



測量体験風景

○大野市立有終東小学校



地図教室風景



測量体験風景

◆石川県邑知瀉断層帯とその周辺の活断層図が公表されました

活断層とは、最近数10万年間に、おおむね千年から数万年の間隔で繰り返し動いてきた跡が地形に現れ、今後も活動を繰り返すと考えられる断層です。

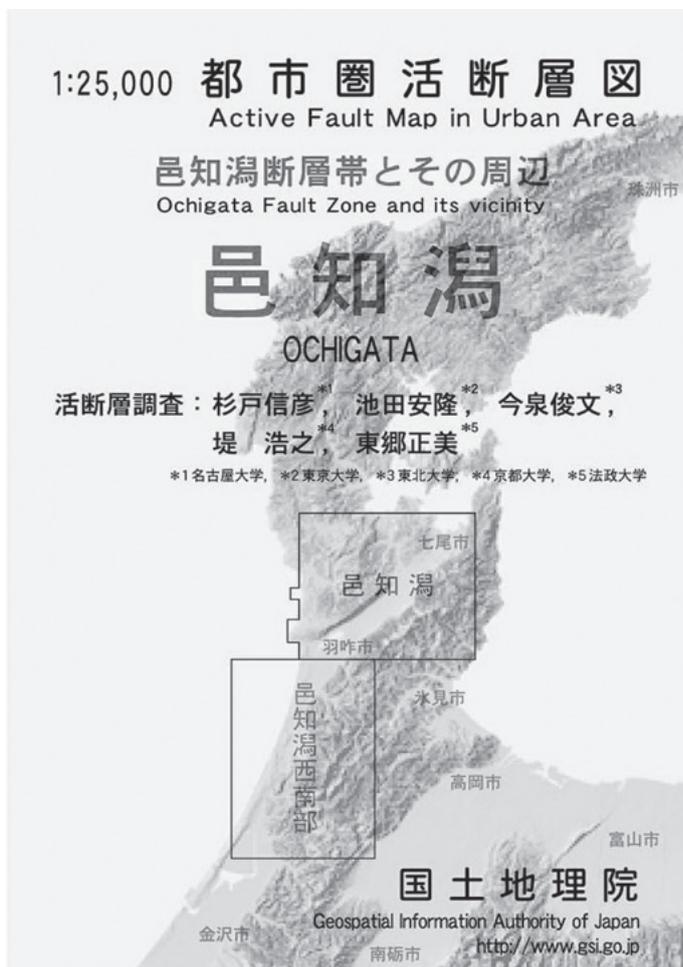
国土地理院では、平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機に、地震が発生した場合に特に被害が甚大になる可能性の高い都市域及びその周辺の主要な活断層が分布する地域を対象に、各種ハザー

ドマップ作成のための基礎資料として、活断層の詳細な位置等の情報を調査してきました。調査した結果は、「2万5千分1都市圏活断層図」として公表してきたところですが、平成22年11月1日に、北陸管内の石川県邑知潟地域を含む、次の4面が新たに公表されました。

- 「邑知潟断層帯とその周辺（邑知潟、邑知潟西南部）」 2面
- 「木曾山脈西縁断層帯とその周辺（上松、妻籠）」 2面

今回の公表により、「2万5千分1都市圏活断層図」は、全国で147面（約58,600km<sup>2</sup>）の整備となります。活断層の概要、活断層図のサンプル、整備範囲等の詳細については、国土地理院のホームページ（<http://www1.gsi.go.jp/geowww/bousai/menu.html>）でご覧になれます。

なお、都市圏活断層図は、1部1,000円（税込み）で全国の主な書店で入手が可能です。



1:25,000都市圏活断層図「邑知潟」表紙

### 記号 Legend

活断層 Active Fault		最近数十万年間に、概ね千年から数万年の周期で繰り返し進んできた跡が地形に残れ、今後とも活動を繰り返すと考えられる断層。明確な地形の証拠から位置が特定できるもの。
活断層(位置やや不明確) Active Fault (site indistinct)		活断層のうち、活動の痕跡が食害や人工的な要因等によって改変されているために、その位置が明確には特定できないもの。
活断層(活折曲) Active Flexure		活断層のうち、変位が軟らかい地層内で監視し、地表には段差ではなくたむみとして現れたもの。たむみの範囲及び傾斜方向を示す。
活断層(伏在部) Active Fault (concealed)		活断層のうち、最新の活動時以後の地層で覆われ、変位を示す地形が直接現れていない部分。
横ずれ Strike Slip		活断層の相対的な水平方向の変位の向きを矢印で示す。
縦ずれ Dip Slip		活断層の上下方向の変位の向き。相対的に低下している側に短線を付す。
地震断層 Earthquake Fault		地震発生の際に変位したことが明らかになっている活断層。この図においては、明治時代以降の地震で観測されたものに限り図示。
トレンチ調査地点 Trench Survey Site		活断層の透過地点に調査溝(トレンチ)を掘り、断層運動の解明調査を行った地点。(これまでに各種調査研究機関等によって調査が実施されたもの)
活断層露頭 Active Fault Exposure		最近数十万年間に堆積した砂礫層などを切断し、活断層であることが確実に判明した露頭。現在は露出がなくなるとも記載。
活断層の名称 Name of Active Fault	野島断層(例)	活断層の固有名称。
推定活断層(地表) Presumed Active Fault		地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、現時点では、明確に特定できないもの。
推定活断層(地表) (位置不明確) Presumed Active Fault (site indistinct)		推定活断層のうち、位置が不明確なもの。
推定活断層(地下) Presumed Active Fault (by prospecting data)		新しい地層に覆われて、新地形が地表で確認されていないが、既往のボーリングや物理探査によりその存在が推定された活断層。
活褶曲 Active Fold		現在も続いている地殻変動により生じている波状地形。凸部または凹部を連ねた線で図示。
地形面の傾斜方向 Tilting Surface Direction		地形面が、現在も続いている地殻変動によって傾いている場所。最大傾斜方向で図示。
上位段丘面 Higher Terrace		上位段丘面のうち、相対的に古い時代に離水したと判断されるもの。
海または河川的作用で形成された平地が、約数十万年前に離水した台地面。		上位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。
中位段丘面 Middle Terrace		中位段丘面のうち、比較的古い時代に離水したと判断されるもの。
海または河川的作用で形成された平地が、約十数万～数千年前に離水した台地面。		中位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。
下位段丘面 Lower Terrace		下位段丘面のうち、比較的古い時代に離水したと判断されるもの。
海または河川的作用で形成された平地が、約数万～数千年前に離水した台地面。		下位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。
沖積低地 Alluvial Lowland		数千年前から歴史時代にかけて、海または河川的作用で形成された平地。
扇状地・沖積錐 Fan・Alluvial Cone		河川によって形成された、谷口を頂点とし平地に向かって扇状に広がる地形。小規模で扇状のものも沖積錐とよばれることがある。
埋立地・干拓地 Reclaimed Land		浅い内湾や低湿地などに埋め立てや排水を施して作り出した新たな陸地。この図においては、主に明治時代以降に造成された範囲を示す。
砂丘 Dune		風によって運ばれた砂からなる小高い丘。
地すべり Landslide		斜面を構成する岩石・土壌などの一部が斜面下方に移動している場所。滑動面と移動土塊の範囲を示す。
変位した谷線 Offset Channel		断層の横ずれ活動により変位した谷線。

1:25,000都市圏活断層図 凡例



2万5千分1都市圏活断層図「邑知濁断層帯とその周辺（邑知濁、邑知濁西南部）」の一部

○参考：「平成22年度邑知濁断層帯調査」実施風景（トレンチ調査）



## ◆基盤地図情報の最新提供状況（平成22年11月～平成23年1月）

平成22年11月から平成23年1月の期間で、基盤地図情報が新たに提供された地域は、次の2県7市3町になります。

○縮尺レベル2500

- ・2010年12月1日 提供開始  
一部：福井県 福井市 \* 2008年6月3日の一部提供と併せ、福井市全域提供となる。

○標高点（DEM）

- ・2011年1月18日 提供開始  
全域：福井県 あわら市  
一部：福井県 福井市、鯖江市、越前市、坂井市、永平寺町、南越前町、越前町  
石川県 小松市、加賀市

基盤地図情報の詳細については、次のURLをご参照下さい。電子国土ポータル上で提供範囲の確認が可能です。

URL：<http://www.gsi.go.jp/kiban/seibi.html>

## ◆測量士・測量士補試験に関するご案内

平成23年度測量士・測量士補試験の受験に関するご案内です。

測量士・測量士補試験は、測量法及び測量法施行令に基づいて行われる国家試験です。

測量士となるのに必要な専門的学識及び応用能力を有するかどうか、また、測量士補となるのに必要な専門的技術を有するかどうかを判定するために行い、試験に合格すれば、それぞれ測量士又は測量士補となる資格を取得できます。

平成23年度においては、次のとおり試験に関しての実施概要が発表されました。詳細につきましては、国土地理院ホームページ（<http://www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN-h23-siken.html>）をご覧ください。または、問い合わせ先までご連絡ください。

- 受験資格：年齢、性別、学歴、実務経験などに関係なく受験できます。
- 試験方法：測量士・測量士補ともに筆記試験です。
- 試験日：平成23年5月22日(日)
- 願書受付期間：平成23年1月5日(水)～平成23年2月16日(水)
- 問い合わせ先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番国土地理院  
総務部総務課 試験登録係 TEL029-864-8214、8248

## ◆新刊地図（北陸地方測量部関連）

(数値地図25000地図画像)

図名	刊行年月日
高田	平成22年12月1日